

雲南市の給与・定員管理等について

1 総括

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

| 区分 | 住民基本台帳人口 (平成28年1月1日) | 歳出額 A | 実質収支 | 人件費 B | 人件費率 B/A | (参考) 26年度の人件費率 |
|------|-------------------------|------------------|---------------|-----------------|-------------|-------------------|
| 27年度 | 人 40,489 | 千円 31,022,050 | 千円 348,248 | 千円 4,314,214 | % 13.9 | % 13.8 |

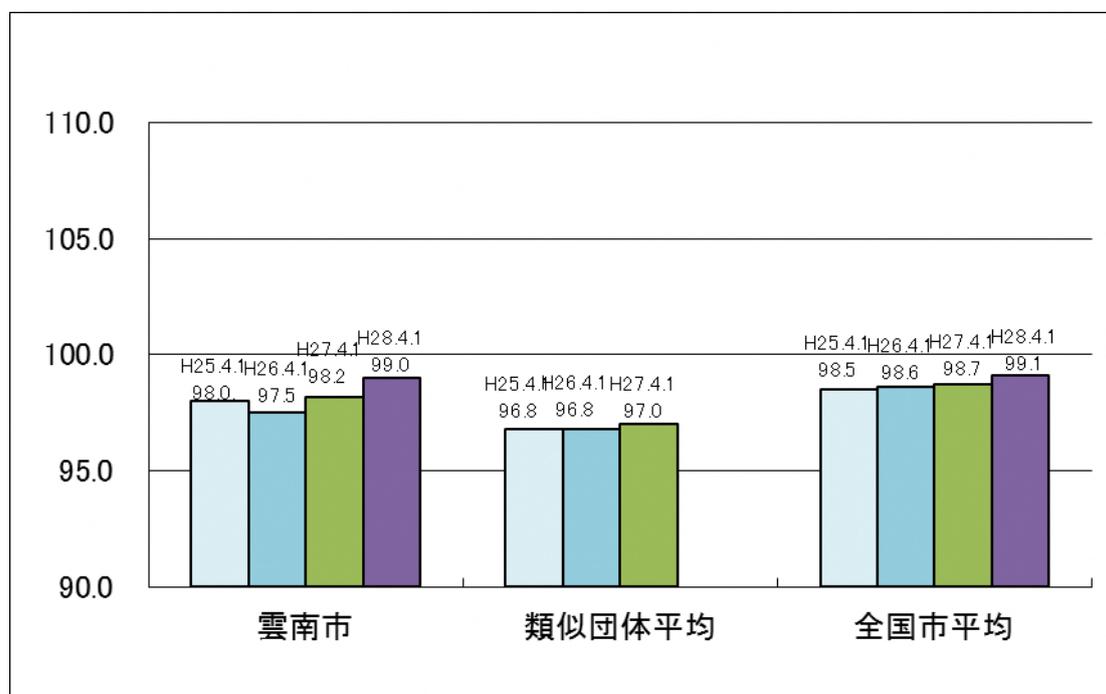
(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

| 区分 | 職員数 A | 給与費 | | | |
|------|----------|-----------------|---------------|---------------|-----------------|
| | | 給料 | 職員手当 | 期末・勤勉手当 | 計 B |
| 27年度 | 人 469 | 千円 1,698,579 | 千円 362,331 | 千円 679,091 | 千円 2,740,001 |

| (参考)一人当たり給与費 B/A | (参考)類似団体平均一人当たり給与費 |
|---------------------|--------------------|
| 千円 5,842 | 千円 — |

- (注) 1 職員手当には退職手当を含まない。
2 職員数は、平成27年4月1日現在の人数である。

(3) ラスパイレス指数の状況



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数（構成）を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表（一）適用職員の俸給月額を100として計算した指数。
2 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体のラスパイレス指数を単純平均したものである。

3 平成25年は、国家公務員の時限的な（2年間）給与改定・臨時特例法による給与減額措置がないとした場合の値である。

※ 平成28年4月1日のラスパイレース指数が、①3年前に比べ1ポイント以上上昇している場合、②3年連続で上昇している場合、③100を超えている場合について、その理由及び改善の見込み

①、②・・・主に給与削減措置の変更に伴うもの。

(4) 給与制度の総合的見直しの実施状況について

【概要】国の給与制度の総合的見直しにおいては、俸給表の水準の平均2%の引下げ及び地域手当の支給割合の見直し等に取り組むとされている。

① 給料表の見直し

[実施 未実施]

実施内容（平均引下げ率、実施（実施予定）時期、経過措置の有無等具体的な内容（未実施の場合には、その理由））

（給料表の改定実施時期）平成27年4月1日

（内容）人事院勧告に基づく給与制度の総合的見直しを踏まえ、国並みの引下げ。ただし、給料月額が切替日の前日に受けていた給料月額に達しないときは、平成30年3月31日までの間、その差額に相当する額を給料として支給する（現給保障）。

② 地域手当の見直し

実施内容（国基準における場合の支給割合及び当該団体の支給割合）

雲南市は、国基準による支給対象地域なし。

③ その他の見直し内容

その他の手当についても、国の改正内容に準じて見直しを実施。

(5) 特記事項

- ・市長、副市長、教育長の給料をそれぞれ10%、7%、5%減額支給しています。
- ・平成28年4月1日から管理職のみ基本給を2.0%減額支給しています。

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況（平成 28 年 4 月 1 日現在）

①一般行政職

| 区 分 | 平均年齢 | 平均給料月額 | 平均給与月額 | 平均給与月額 (国比較ベース) |
|------|--------|-----------|-----------|--------------------|
| 雲南市 | 43.4 歳 | 335,757 円 | 413,371 円 | 364,574 円 |
| 島根県 | 44.0 歳 | 332,883 円 | 409,760 円 | 358,981 円 |
| 国 | 43.6 歳 | 331,816 円 | — | 410,984 円 |
| 類似団体 | — | — | — | — |

- (注) 1 「平均給料月額」とは、平成 28 年 4 月 1 日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均である。
- 2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものである。
- また、「平均給与月額（国比較ベース）」は、比較のため、国家公務員と同じベース（＝時間外勤務手当等を除いたもの）で算出している。

(2) 職員の初任給の状況（平成 28 年 4 月 1 日現在）

| 区 分 | | 雲 南 市 | 島 根 県 | 国 |
|-------|-------|-----------|-----------|-----------|
| 一般行政職 | 大 学 卒 | 176,700 円 | 177,830 円 | 176,700 円 |
| | 高 校 卒 | 144,600 円 | 145,525 円 | 144,600 円 |

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額の状況（平成 28 年 4 月 1 日現在）

| 区 分 | | 経験年数10年 | 経験年数20年 | 経験年数25年 | 経験年数30年 |
|-------|-------|------------|-----------|-----------|------------|
| 一般行政職 | 大 学 卒 | 252,720 円 | 340,643 円 | 384,876 円 | ※404,034 円 |
| | 高 校 卒 | ※224,775 円 | 306,075 円 | 348,420 円 | ※391,113 円 |

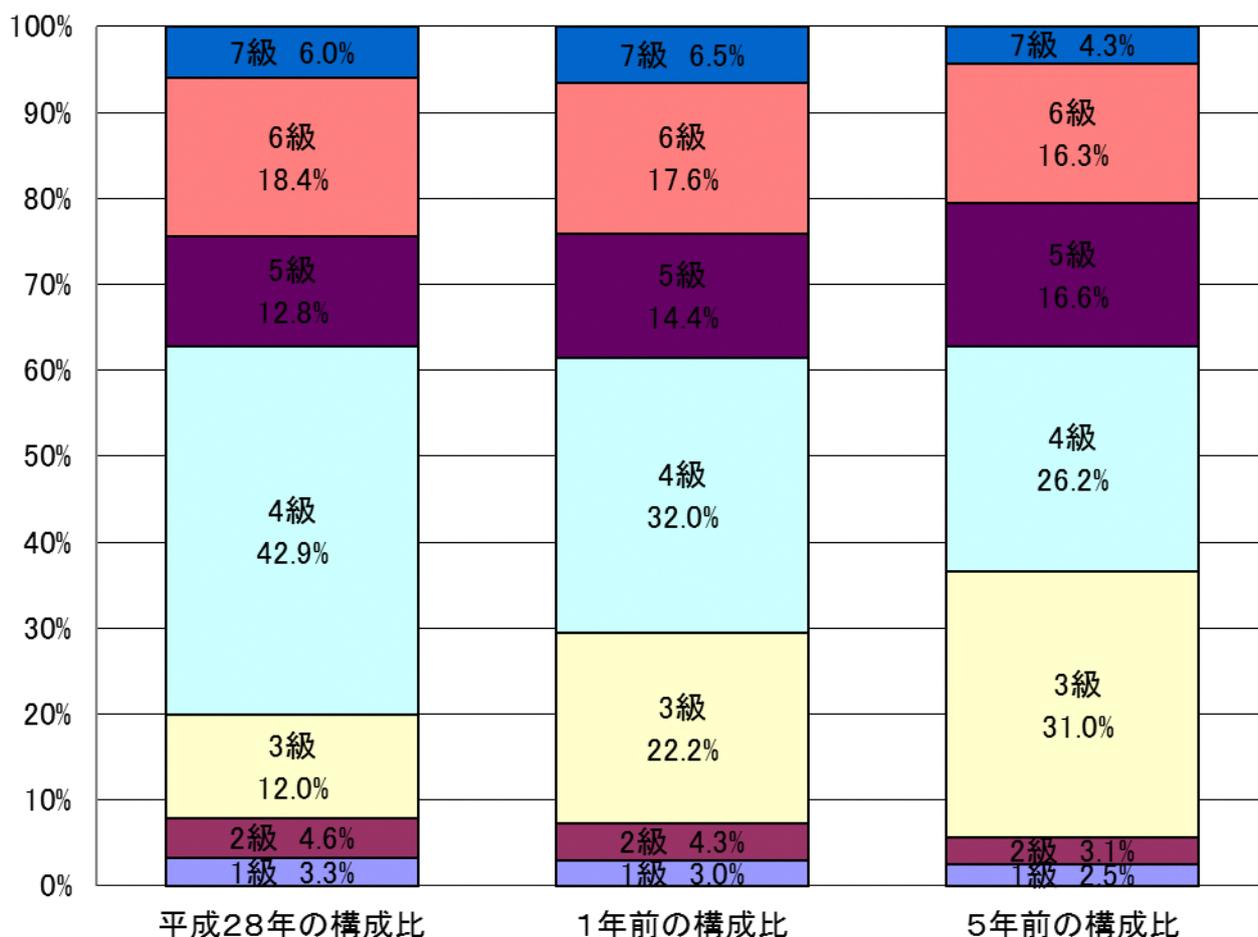
- (注) ※は、当該階層の職員数が 3 人以下のため、近似階層の職員を含めた平均給料月額である。

3 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数及び給料表の状況（平成28年4月1日現在）

| 区分 | 標準的な職務内容 | 職員数 | 構成比 | 1号給の給料月額 | 最高号給の給料月額 |
|----|----------------------------------|------|-------|----------|-----------|
| 1級 | 主事若しくは技師の職務又はこれらに相当する職務 | 12人 | 3.3% | 141,600円 | 246,600円 |
| 2級 | 主任主事若しくは主任技師の職務又はこれらに相当する職務 | 17人 | 4.6% | 191,700円 | 303,400円 |
| 3級 | 副主幹若しくは副主幹技師の職務又はこれらに相当する職務 | 44人 | 12.0% | 227,900円 | 349,200円 |
| 4級 | 主幹若しくは主幹技師の職務又はこれらに相当する職務 | 158人 | 42.9% | 261,100円 | 380,200円 |
| 5級 | 統括主幹若しくは統括技師の職務又はこれらに相当する職務 | 47人 | 12.8% | 287,100円 | 392,200円 |
| 6級 | 次長、課長、専門官、室長若しくは主査の職又はこれらに相当する職務 | 68人 | 18.4% | 317,700円 | 409,400円 |
| 7級 | 部長又はこれらに相当する職務 | 22人 | 6.0% | 361,800円 | 444,100円 |

- (注) 1 雲南市の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数である。
 2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務である。



(2) 昇給への勤務成績の反映状況

新たな人事評価制度において、勤務成績が優秀な職員以上の取扱いについて、昇給への反映を検討する予定。

なお、昇給は、その職員の職務を監督する地位のある者の証明を得て行っている。

4 職員の手当の状況

(1) 期末手当・勤勉手当

| 雲南市 | 島根県 | 国 |
|---|---|---|
| 1人当たり平均支給額 (平成27年度) 1,528千円 | 1人当たり平均支給額 (平成27年度) 1,537千円 | — |
| (平成27年度支給割合) 期末手当 2.60月分 勤勉手当 1.60月分 (1.45)月分 (0.75)月分 | (平成27年度支給割合) 期末手当 2.40月分 勤勉手当 1.50月分 (1.25)月分 (0.80)月分 | (平成27年度支給割合) 期末手当 2.60月分 勤勉手当 1.60月分 (1.45)月分 (0.75)月分 |
| (加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算 5～15% | (加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算 5～20% 管理職加算 15～25% | (加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算 5～20% 管理職加算 10～25% |

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

○ 勤勉手当への勤務成績の反映状況（一般行政職）

新たな人事評価制度において、勤務成績が優秀な職員以上の取扱いについて、反映を検討する予定。
 なお、勤務成績が良好でない職員については、勤務成績に応じて反映している。

(2) 退職手当（平成28年4月1日現在）

| 雲 南 市 | | | 国 | | |
|----------------------|----------|------------|----------------------|----------|------------|
| (支給率) | 自己都合 | 応募認定・定年 | (支給率) | 自己都合 | 応募認定・定年 |
| 勤続20年 | 20.445月分 | 25.55625月分 | 勤続20年 | 20.445月分 | 25.55625月分 |
| 勤続25年 | 29.145月分 | 34.5825月分 | 勤続25年 | 29.145月分 | 34.5825月分 |
| 勤続35年 | 41.325月分 | 49.59月分 | 勤続35年 | 41.325月分 | 49.59月分 |
| 最高限度額 | 49.59月分 | 49.59月分 | 最高限度額 | 49.59月分 | 49.59月分 |
| その他の加算措置 | | | その他の加算措置 | | |
| 定年前早期退職特例措置(2~30%加算) | | | 定年前早期退職特例措置(2~45%加算) | | |
| 1人当たり平均支給額 | | | 1人当たり平均支給額 | | |
| | | 913千円 | | | 23,294千円 |

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、27年度に退職した職員に支給された平均額である。

(3) 地域手当（平成28年4月1日現在）

| | | | |
|---------------------------|-----|---------|-----------|
| 支給実績（平成27年度決算） | | | 575千円 |
| 支給職員1人当たり平均支給年額（平成27年度決算） | | | 575,061円 |
| 支給対象地域 | 支給率 | 支給対象職員数 | 国の制度（支給率） |
| 東京都（特別区） | 20% | 1人 | 20% |
| 地域手当補正後ラスパイレス指数 | | | 99.0 |
| （ラスパイレス指数） | | | (99.0) |

(注) 地域手当補正後ラスパイレス指数とは、地域手当を加味した地域における国家公務員と地方公務員の給与水準を比較するため、地域手当の支給率を用いて補正したラスパイレス指数。

(補正前のラスパイレス指数 × (1 + 当該団体の地域手当支給率) / (1 + 国の指定基準に基づく地域手当支給率) により算出。)

(4) 特殊勤務手当（平成28年4月1日現在）

| | | | | |
|---------------------------|-------------|--------------------|--------------------|--------------|
| 支給実績（平成27年度決算） | | | 0千円 | |
| 支給職員1人当たり平均支給年額（平成27年度決算） | | | 0円 | |
| 職員全体に占める手当支給職員の割合（平成27年度） | | | —% | |
| 手当の種類（手当数） | | | | |
| 手当の名称 | 主な支給対象職員 | 主な支給対象業務 | 支給実績 (平成27年度決算) | 左記職員に対する支給単価 |
| 防疫等作業手当 | 感染症防疫従事職員 | 感染症防疫に従事した場合 | 0 | 日額300円 |
| 死体処理等従事手当 | 行旅死病人業務従事職員 | 行旅死亡者等の死体処理に従事した場合 | 0 | 日額3,000円 |
| | | 行旅病人等の対応に従事した場合 | 0 | 日額1,000円 |

(5) 時間外勤務手当

| | |
|-------------------------|-----------|
| 支給実績（平成27年度決算） | 172,213千円 |
| 職員1人当たり平均支給年額（平成27年度決算） | 446千円 |
| 支給実績（平成26年度決算） | 156,700千円 |
| 職員1人当たり平均支給年額（平成26年度決算） | 398千円 |

（注）1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

2 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（平成27年度決算）」と同じ年度の4月1日現在の総職員数（管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含む。

(6) その他の手当（平成28年4月1日現在）

| 手当名 | 内容及び支給単価 | 国の制度との異同 | 国の制度と異なる内容 | 支給実績（平成27年度決算） | 支給職員1人当たり平均支給年額（平成27年度決算） |
|---------|---|----------|-------------|----------------|---------------------------|
| 扶養手当 | 配偶者13,000円 配偶者以外の扶養親族1人につき6,500円 1人（配偶者なし）11,000円 特定期間（満16歳年度初めから満22歳年度末）の子の加算5,000円 | 同じ | — | 61,201千円 | 231,822円 |
| 住居手当 | 借家・借間居住者 ① 家賃23,000円以下の場合：家賃－12,000円 ② 家賃23,000円を超える場合：11,000円＋1/2×（家賃－23,000円）支給限度額27,000円 | 同じ | — | 24,445千円 | 265,710円 |
| 通勤手当 | 交通機関利用者 最高支給限度額 55,000円 交通用具（自動車等）使用者 2km～24km以上 4,000円～26,500円 | 異なる | 交通用具の区分及び距離 | 62,031千円 | 155,014円 |
| 初任給調整手当 | 医師、歯科医師等採用が困難な職種に支給 | 同じ | — | 8,822千円 | 4,411,200円 |
| 管理職手当 | 支給額 部長級 66,400円 次長級 49,900円 課長級 41,600円 主査級 33,200円 | | | 64,785千円 | 578,869円 |

| | | | | | |
|------------|---|-----|-----------|---------|----------|
| 管理職員特別勤務手当 | 臨時又は緊急の必要その他公務の運営の必要により週休日又は休日に勤務した管理職員に支給 支給額（勤務1回につき）12,000円以内（実働時間が6時間を超える場合18,000円以内） 災害への対処その他の臨時又は緊急の必要により週休日等以外の日の午前0時から午前5時までの間であって正規の勤務時間以外の時間に勤務した管理職員に支給 支給額（勤務1回につき）6,000円以内 | 異なる | 支給区分及び支給額 | 1,429千円 | 228,640円 |
| 単身赴任手当 | 支給額 30,000円 職員と配偶者の住居の交通距離に応じ加算（8,000円～70,000円） | 同じ | — | 624千円 | 624,000円 |

5 特別職の報酬等の状況（平成28年4月1日現在）

| 区分 | | 給料 | | 月額等 | |
|------|-----------------|------------------------|---------------------|--------|---|
| 給料 | 市長 | 801,000円 (890,000円) | (参考) 類似団体における最高/最低額 | 円/ | 円 |
| | 副市長 | 670,530円 (721,000円) | | 円/ | 円 |
| 報酬 | 議長 | 413,000円 | | 円/ | 円 |
| | 副議長 | 354,000円 | | 円/ | 円 |
| | 議員 | 328,000円 | | 円/ | 円 |
| 期末手当 | 市区町村長 副市町村長 | (平成27年度支給割合) 3.15月分 | | | |
| | 議長 副議長 議員 | (平成27年度支給割合) 3.15月分 | | | |
| 退職手当 | 市長 副市長 | (算定方式) | (1期の手当額) | (支給時期) | |
| | | 給料月額×450/100×在職年数 | 16,020,000 | 任期满了時 | |
| | | 給料月額×270/100×在職年数 | 7,786,800 | 任期满了時 | |
| | 備考 | | | | |

- (注) 1 給料及び報酬の()内は、減額措置を行う前の金額である。
 2 退職手当の「1期の手当額」は、4月1日現在の給料月額及び支給率に基づき、1期(4年=48月)勤めた場合における退職手当の見込額である。

6 職員数の状況

(1) 部門別職員数の状況と主な増減理由

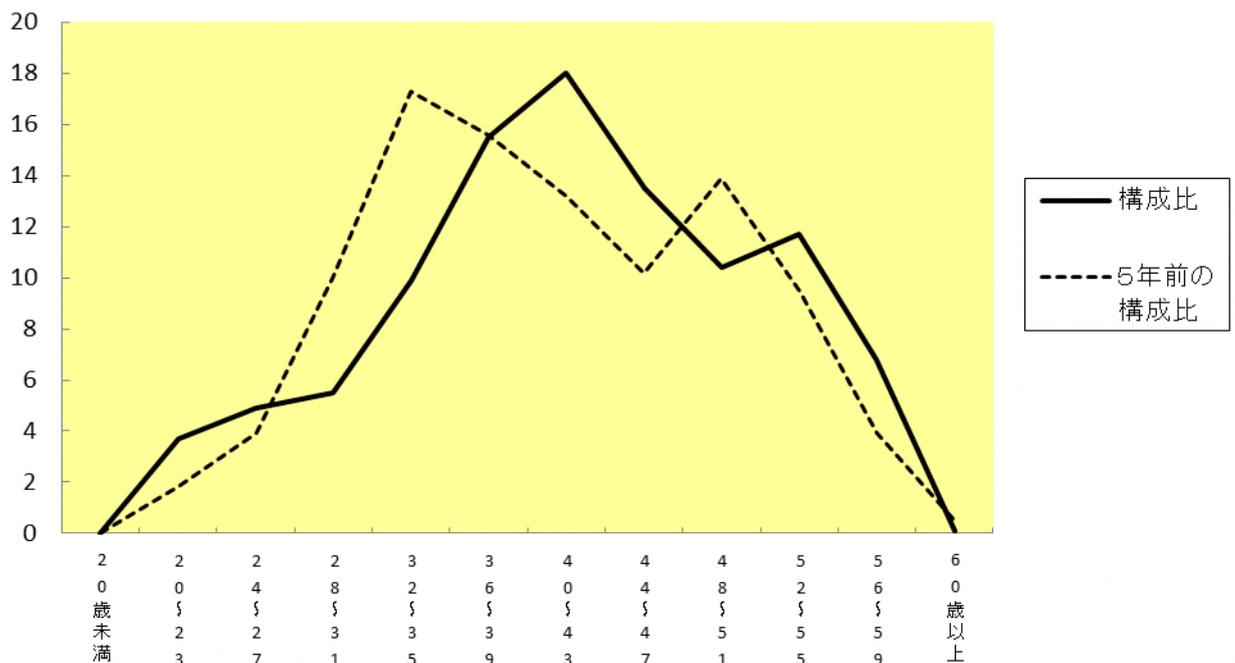
(各年4月1日現在)

| 部門 | 区分 | 職員数 | | 対前年増減数 | 主な増減理由 |
|---------|------|--------------|--------------|-----------|--|
| | | 平成28年 | 平成27年 | | |
| 普通会計部門 | 議会 | 5 | 5 | 0 | |
| | 総務 | 146 | 133 | 13 | |
| | 税務 | 25 | 26 | -1 | |
| | 民生 | 94 | 83 | 11 | |
| | 衛生 | 26 | 49 | -23 | |
| | 労働 | 7 | 7 | 0 | |
| | 農林水産 | 49 | 53 | -4 | |
| | 商工 | 7 | 6 | 1 | |
| | 土木 | 39 | 45 | -6 | |
| | 計 | 398 | 407 | -9 | <参考> 人口1万人当たり職員数 98人 (類似団体の人口1万人当たりの職員数 一人) |
| | 教育部門 | 61 | 60 | 1 | |
| | 小計 | | | | <参考> 人口1万人当たり職員数 113人 (類似団体の人口1万人当たりの職員数 一人) |
| | | 459 | 467 | -8 | |
| 公営企業等部門 | 病院 | 255 | 258 | -3 | |
| | 水道 | 18 | 16 | 2 | |
| | 下水道 | 8 | 7 | 1 | |
| | その他 | 10 | 10 | 0 | |
| | 小計 | 291 | 291 | 0 | |
| 合計 | | 750 [909] | 758 [909] | -8 [] | <参考> 人口1万人当たり職員数 185人 |

(注) 1 職員数は一般職に属する職員数である。

2 []内は、条例定数の合計である。

(2) 年齢別職員構成の状況 (平成28年4月1日現在)



| | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------|-----|
| 区 分 | 20歳 未 満 | 20歳 } 23歳 | 24歳 } 27歳 | 28歳 } 31歳 | 32歳 } 35歳 | 36歳 } 39歳 | 40歳 } 43歳 | 44歳 } 47歳 | 48歳 } 51歳 | 52歳 } 55歳 | 56歳 } 59歳 | 60歳 以上 | 計 |
| 職員数 | 0 | 28 | 37 | 41 | 74 | 116 | 135 | 101 | 78 | 88 | 51 | 1 | 750 |

(3) 職員数の推移

(単位：人・%)

| 部門別 \ 年 度 | 23 年 | 24 年 | 25 年 | 26 年 | 27 年 | 28 年 | 過去 5 年間 の増減数 (率) |
|-----------|------|------|------|------|------|------|---------------------|
| 一般行政 | 422 | 419 | 417 | 406 | 407 | 398 | △ 24 (△ 5.7%) |
| 教育 | 84 | 80 | 70 | 68 | 60 | 61 | △ 23 (△ 27.4%) |
| 普通会計計 | 506 | 499 | 487 | 474 | 467 | 459 | △ 47 (△ 9.3%) |
| 公営企業等会計計 | 278 | 275 | 282 | 284 | 291 | 291 | 13 (4.7%) |
| 総合計 | 784 | 774 | 769 | 758 | 758 | 750 | △ 34 (△ 4.3%) |

(注) 1 各年における定員管理調査において報告した部門別職員数。

2 合併した団体にあつては、合併前の年については合併前の旧団体の合計職員数。

7 公営企業職員の状況

(1) 病院事業

① 職員給与費の状況

ア 決算

| 区 分 | 総費用 A | 純損益又は 実質収支 | 職員給与費 B | 総費用に占める 職員給与費比率 B/A | (参考) 26年度の総費用に占 める職員給与費比率 |
|------|-----------------|---------------|-----------------|---------------------------|---------------------------------|
| 27年度 | 千円 4,203,070 | 千円 40,223 | 千円 1,696,818 | % 40.4 | % 42.0 |

イ 予算

| 区 分 | 職員数 A | 給 与 費 | | | | 一人当たり 給与費 B/A | (参考)25年度平均 一人当たり給与費 |
|------|----------|-----------------|---------------|---------------|-----------------|------------------|------------------------|
| | | 給 料 | 職員手当 | 期末・勤勉手当 | 計 B | | |
| 27年度 | 人 250 | 千円 1,033,991 | 千円 290,062 | 千円 372,765 | 千円 1,696,818 | 千円 6,787 | 千円 7,027 |

(注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。

2 職員数は、平成28年3月31日現在の人数である。

ウ 特記事項

② 職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況（平成28年4月1日現在）

| 区分 | 平均年齢 | 基本給 | 平均月収額 |
|----------|-------|----------|------------|
| 医師 | 49.6歳 | 669,457円 | 1,207,476円 |
| 医療技術師 | 38.1歳 | 292,625円 | 338,320円 |
| 看護師・准看護師 | 41.1歳 | 317,101円 | 379,235円 |
| 事務員 | 42.3歳 | 327,040円 | 385,920円 |
| 技能労務員 | 47.1歳 | 345,372円 | 379,111円 |

③ 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

| 病院事業 | 雲南市 |
|--|--|
| 1人当たり平均支給額（平成27年度） 1,456千円 | 1人当たり平均支給額（平成27年度） 1,528千円 |
| （平成27年度支給割合） 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.60 月分 | （平成27年度支給割合） 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.60 月分 |
| （加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算 5～10% | （加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算 5～15% |

イ 退職手当（平成28年4月1日現在）

| 病院事業 | 雲南市 |
|---|--|
| （支給率） 自己都合 応募認定・定年 勤続20年 20.445月分 25.55625月分 勤続25年 29.145月分 34.5825 月分 勤続35年 41.325月分 49.59 月分 最高限度額 49.59 月分 49.59 月分 その他の加算措置 退職前の職責等に応じた調整額を加算 1人当たり平均支給額 2,068千円 23,633千円 | （支給率） 自己都合 応募認定・定年 勤続20年 20.445月分 25.55625月分 勤続25年 29.145月分 34.5825 月分 勤続35年 41.325月分 49.59 月分 最高限度額 49.59 月分 49.59 月分 その他の加算措置 定年前早期退職特例措置（2～30%加算） 1人当たり平均支給額 913千円 23,294千円 |

（注）退職手当の1人当たり平均支給額は、平成27年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 特殊勤務手当（平成28年4月1日現在）

| | | | |
|---------------------------|------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 支給実績（平成27年度決算） | 82,933千円 | | |
| 支給職員1人当たり平均支給年額（平成27年度決算） | 487,920円 | | |
| 職員全体に占める手当支給職員の割合（平成27年度） | 67.8% | | |
| 手当の種類 | | | |
| 手当の名称 | 主な支給対象職員 | 主な支給対象業務 | 左記職員に対する支給単価 |
| 診療手当 | 医師 | 診療に従事した場合 | 役職別に月額80,000円～180,000円 |
| 医師呼出手当 | 医師 | 正規の勤務時間以外の時間に出勤を要請された場合 | 出勤一回につき2,500円（5,000円） |
| 夜間看護手当 | 保健師、助産師、看護師、准看護師 | 深夜（午後10時から翌日午前5時）において行われる看護 | その勤務時間が深夜の全部を含む場合 6,500円 |

| | | | |
|---------|-----------------------------|---|--|
| | | 等の業務に従事した場合 | 深夜における勤務時間が一部で4時間以上の場合 3,500円 |
| | | | 深夜における勤務時間が2時間以上4時間未満の場合 3,000円 |
| 待機手当 | 医師 | | 50,000円を超えない範囲で管理者が定める額 |
| | 診療放射線技師、臨床検査技師、助産師、看護師、准看護師 | 夜間、休日等において、病院の医療業務が、宿日直及び勤務を命じられた看護師及び医療技術者のみで対応できなくなる場合に備えて、院長があらかじめ勤務時間外に待機することを命じた場合 | 17:15～翌8:30 1,400円 (2,600円) 8:30～翌8:30 2,800円 (5,200円) 12:00～翌8:30 1,150円 (2,350円) 訪問看護 24時間電話待機 500円/日 訪問待機(平日)1,400円/日 訪問看護(休日)2,800円/日 |
| 放射線取扱手当 | 診療放射線技師 | 放射線を取り扱う作業に従事する場合 | 月額2,000円 |
| 医師入院手当 | 医師 | 入院患者を受け持つ場合 | 患者1人当たり初回に限り5,000円 |
| | | 分娩に従事した場合 | 1分娩につき20,000円 |
| 医師派遣手当 | 医師 | 派遣診療等をした場合 | 管理者が別に定める |

(注) 支給単位の()内の金額は年末年始における金額

エ 時間外勤務手当

| | |
|-------------------------|----------|
| 支給実績(平成27年度決算) | 42,040千円 |
| 職員1人当たり平均支給年額(平成27年度決算) | 168千円 |
| 支給実績(平成26年度決算) | 38,350千円 |
| 職員1人当たり平均支給年額(平成26年度決算) | 157千円 |

- (注) 1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。
- 2 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績(平成27年度決算)」と同じ年度の4月1日現在の総職員数(管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。)であり、短時間勤務職員を含む。

オ その他の手当(平成28年4月1日現在)

| 手当名 | 内容及び支給単価 | 国の制度との異同 | 国の制度と異なる内容 | 支給実績(平成27年度決算) | 支給職員1人当たり平均支給年額(平成27年度決算) |
|------|---|----------|------------|----------------|---------------------------|
| 扶養手当 | 配偶者13,000円 配偶者以外の扶養親族1人につき6,500円 1人(配偶者なし)11,000円 | 同じ | — | 24,182千円 | 213,994円 |

| | | | | | |
|------------|---|-----|----------------|----------|------------|
| | 特定期間（満16歳年度初めから満22歳年度末）の子の加算5,000円 | | | | |
| 住居手当 | 借家・借間居住者 ① 家賃23,000円以下の場合 ：家賃－12,000円 ② 家賃23,000円を超える場合 ：11,000円＋1/2×（家賃－23,000円）支給限度額27,000円 | 同じ | — | 7,262千円 | 226,908円 |
| 通勤手当 | 交通機関利用者 最高支給限度額 55,000円 交通用具（自動車等）使用者 2km～40km以上 3,000円～32,600円 | 異なる | 交通用具使用者の通勤距離区分 | 25,314千円 | 122,290円 |
| 初任給調整手当 | 医師、歯科医師等採用が困難な職種に支給 ① 副院長、診療局長、部長、センター所長、次長及びセンター副所長の職員にある医師250,000円 ② ①以外の者で免許取得4年目以上の医師300,000円 | 異なる | 支給対象区分及び支給額 | 51,300千円 | 3,420,000円 |
| 管理職手当 | 支給割合（給料月額に対して） 院長20/100 統轄副院長及び副院長15/100 名誉院長、名誉顧問、診療局長、部長、センター所長、次長及びセンター副所長10/100 課長、科長及び師長7/100 | | | 18,066千円 | 752,750円 |
| 管理職員特別勤務手当 | 臨時又は緊急の必要その他公務の運営の必要により週休日又は休日に勤務した管理職員に支給 支給額（勤務1回につき） 院長12,000円 統轄副院長及び副院長8,000円 名誉院長、名誉顧問、診療局長、部長、センター所長、次長、センター副所長、課長、科長及び師長4,000円 （実働時間が6時間を超える場合100分の150を乗じた額） | 異なる | 支給対象区分及び支給額 | 0千円 | 0円 |

(2) 水道事業

① 職員給与費の状況

ア 決算

| 区分 | 総費用 A | 純損益又は 実質収支 | 職員給与費 B | 総費用に占める 職員給与費比率 B/A | (参考) 26年度の総費用に占 める職員給与費比率 |
|------|---------------|---------------|--------------|---------------------------|---------------------------------|
| 27年度 | 千円 817,522 | 千円 46,365 | 千円 67,692 | % 8.3 | % 8.0 |

| 区分 | 職員数 A | 給 与 費 | | | | 一人当たり 給与費 B/A | (参考)26年度平均 一人当たり給与費 |
|------|----------|--------------|-------------|--------------|--------------|------------------|------------------------|
| | | 給 料 | 職員手当 | 期末・勤勉手当 | 計 B | | |
| 27年度 | 人 11 | 千円 44,205 | 千円 5,973 | 千円 17,514 | 千円 67,692 | 千円 6,154 | 千円 5,942 |

(注) 1 職員手当には退職給与金を含まない。

2 職員数は、平成28年3月31日現在の人数である。

イ 特記事項

・平成28年4月1日から管理職のみ基本給を2.0%減額支給しています。

② 職員の職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況(平成28年4月1日現在)

| 区分 | 平均年齢 | 基本給 | 平均月収額 |
|------|-------|----------|----------|
| 水道事業 | 43.4歳 | 334,886円 | 512,818円 |

③ 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

| 水道事業 | | 雲南市 | |
|--|----------------|--|----------------|
| 1人当たり平均支給額(平成27年度) 1,592千円 | | 1人当たり平均支給額(平成27年度) 1,528千円 | |
| (平成27年度支給割合) 期末手当 2.60月分 | 勤勉手当 1.60月分 | (平成27年度支給割合) 期末手当 2.60月分 | 勤勉手当 1.60月分 |
| (加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算 5~15% | | (加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 役職加算 5~15% | |

イ 退職手当(平成27年4月1日現在)

| 水道事業 | | | 雲南市 | | |
|----------------------------------|----------|------------|----------------------------------|----------|------------|
| (支給率) | 自己都合 | 応募認定・定年 | (支給率) | 自己都合 | 応募認定・定年 |
| 勤続20年 | 20.445月分 | 25.55625月分 | 勤続20年 | 20.445月分 | 25.55625月分 |
| 勤続25年 | 29.145月分 | 34.5825月分 | 勤続25年 | 29.145月分 | 34.5825月分 |
| 勤続35年 | 41.325月分 | 49.59月分 | 勤続35年 | 41.325月分 | 49.59月分 |
| 最高限度額 | 49.59月分 | 49.59月分 | 最高限度額 | 49.59月分 | 49.59月分 |
| その他の加算措置 定年前早期退職特例措置(2~30%加算) | | | その他の加算措置 定年前早期退職特例措置(2~30%加算) | | |
| 1人当たり平均支給額 — | | | 1人当たり平均支給額 913千円 23,294千円 | | |

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、平成26年度に退職した職員に支給された平均額である。

ウ 地域手当（平成28年4月1日現在）

| | | | |
|---------------------------|-------|---------|-----------|
| 支給実績（平成27年度決算） | | | 0千円 |
| 支給職員1人当たり平均支給年額（平成27年度決算） | | | 0円 |
| 支給対象地域 | 支給率 | 支給対象職員数 | 国の制度（支給率） |
| 東京都（特別区） | 18.5% | 0人 | 18.5% |
| 大阪市 | 15.5% | 0人 | 15.5% |
| 広島市 | 10% | 0人 | 10% |

エ 特殊勤務手当（平成28年4月1日現在）

| | | | |
|---------------------------|----------|----------|--------------|
| 支給実績（平成27年度決算） | | | 0千円 |
| 支給職員1人当たり平均支給年額（平成27年度決算） | | | 0円 |
| 職員全体に占める手当支給職員の割合（平成27年度） | | | 0.0% |
| 手当の種類 | | | |
| 手当の名称 | 主な支給対象職員 | 主な支給対象業務 | 左記職員に対する支給単価 |
| — | — | — | — |

オ 時間外勤務手当

| | |
|-------------------------|---------|
| 支給実績（平成27年度決算） | 1,898千円 |
| 職員1人当たり平均支給年額（平成27年度決算） | 182千円 |
| 支給実績（平成26年度決算） | 1,733千円 |
| 職員1人当たり平均支給年額（平成26年度決算） | 158千円 |

（注）1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含む。

2 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（平成27年度決算）」と同じ年度の4月1日現在の総職員数（管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含む。

カ その他の手当（平成28年4月1日現在）

| 手当名 | 内容及び支給単価 | 国の制度との異同 | 国の制度と異なる内容 | 支給実績（平成27年度決算） | 支給職員1人当たり平均支給年額（平成27年度決算） |
|------|---|----------|------------|----------------|---------------------------|
| 扶養手当 | 配偶者13,000円 配偶者以外の扶養親族1人につき6,500円 1人（配偶者なし）11,000円 特定期間（満16歳年度初めから満22歳年度末）の子の加算5,000円 | 同じ | — | 900千円 | 150,000円 |
| 住居手当 | 借家・借間居住者 ③ 家賃23,000円以下の場合 ：家賃－12,000円 ④ 家賃23,000円を超える場合 ：11,000円＋1/2×（家賃－23,000円）支給限度額27,000円 | 同じ | — | 0千円 | 0円 |
| 通勤手当 | 交通機関利用者 最高支給限度額 55,000円 | 異なる | 交通用具の区分及 | 1,220千円 | 152,550円 |

| | | | | | |
|--------------------|---|-----|-------------|---------|----------|
| | 交通用具（自動車等）使用者 2km～24km以上 4,000円～26,500円 | | び距離 | | |
| 管理職手当 | 支給額 部長級 66,400円 次長級 49,900円 課長級 41,600円 主査級 33,200円 | | | 1,895千円 | 631,600円 |
| 管理職員 特別勤務 手当 | 臨時又は緊急の必要その他公務の運営の必要により週休日又は休日に勤務した管理職員に支給 支給額（勤務1回につき）12,000円以内（実働時間が6時間を超える場合18,000円以内） 災害への対処その他の臨時又は緊急の必要により週休日等以外の日の午前0時から午前5時までの間であって正規の勤務時間以外の時間に勤務した管理職員に支給 支給額（勤務1回につき）6,000円以内 | 異なる | 支給対象区分及び支給額 | 60千円 | 20,000円 |

1 職員の勤務時間その他の勤務条件

(1) 職員の勤務時間（標準）

| 1週間の正規の勤務時間 | 1日の正規の勤務時間 | 開始時刻 | 終了時刻 | 休憩時間 |
|-------------|------------|------|-------|-------------|
| 38時間45分 | 7時間45分 | 8:30 | 17:15 | 12:00～13:00 |

（参考） 雲南市職員の勤務時間、休暇等に関する条例・雲南市職員の勤務時間、休暇等に関する規則・雲南市職員の勤務時間に関する規程

(2) 休暇の概要

| 種類 | 概要 |
|---------|--|
| 年次有給休暇 | 1年（暦年）につき20日 年末に年次有給休暇の使用残日数があるときは、20日を限度として翌年に繰り越すことができる。 |
| 公務傷病等休暇 | 職員が公務上又は通勤により負傷し、疾病にかかった場合において任命権者が療養を必要と認めるときは、その療養中は有給休暇。 |
| 私傷病休暇 | 職員が負傷し、又は疾病にかかった場合において任命権者が療養を必要と認めるとき90日以内の期間、その他市長が特に認める特定の疾患は180日、結核性疾患1年間は有給休暇とする。 |
| 組合休暇 | 職員が任命権者の許可を得て登録された職員団体の業務又は活動に従事する期間。（無給） |
| 介護休暇 | 職員が、親族で負傷、疾病又は老齢により2週間以上にわたり日常生活を営むのに支障がある者の介護をするため、6月の期間内で介護休暇を受けることができる。休暇期間中の給与は減額。 |
| 特別休暇 | 特別休暇は、選挙権の行使、結婚、出産、交通機関の事故その他特別の事由がある場合に限って与える。 |

（参考） 雲南市職員の勤務時間、休暇等に関する条例・雲南市職員の勤務時間、休暇等に関する規則

(3) 特別休暇の種類（主なもの）

| 種類 | 付与日数 |
|------------|---|
| 骨髄提供のための休暇 | 必要と認められる期間 |
| ボランティア休暇 | 5日以内 |
| 慶弔休暇 | 本人の結婚：7日以内 妻の出産：3日以内 忌引：配偶者10日以内、父母7日以内（血族）等 父母、配偶者及び子の追悼行事：年各々1日 |
| 産前休暇 | 産前8週間以内 |
| 産後休暇 | 出産の日の翌日から8週間 |
| 育児時間 | 1日2回それぞれ60分以内（満1歳まで） |
| 夏季休暇 | 7月から9月までの間に3日以内 |
| 子の看護のための休暇 | 1人につき5日以内、2人目以上は10日以内 |
| 女性休暇 | 2日以内 |
| リフレッシュ休暇 | 2日以内 |

2 職員の分限及び懲戒処分の状況

(1) 分限処分者数（平成27年度）

市長部局等

| 処分の種類 処分事由 | 降 任 | 免 職 | 休 職 | 降 給 | 合 計 |
|--|-----|-----|-----|-----|-----|
| 勤務成績が良くない場合 (地方公務員法第28条第1項第1号) | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 心身の故障の場合 (地方公務員法第28条第1項第2号) (地方公務員法第28条第2項第1号) | | | 4 | | 4 |
| 職に必要な適格性を欠く場合 (地方公務員法第28条第1項第3号) | | | | | |
| その他 | | | | | |
| 合 計 | | | 4 | | 4 |

教育委員会

| 処分の種類 処分事由 | 降 任 | 免 職 | 休 職 | 降 給 | 合 計 |
|--|-----|-----|-----|-----|-----|
| 勤務成績が良くない場合 (地方公務員法第28条第1項第1号) | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 心身の故障の場合 (地方公務員法第28条第1項第2号) (地方公務員法第28条第2項第1号) | | | | | |
| 職に必要な適格性を欠く場合 (地方公務員法第28条第1項第3号) | | | | | |
| その他 | | | | | |
| 合 計 | | | | | |

(2) 懲戒処分者数（平成27年度）

市長部局等

| 処分の種類 処分事由 | 戒 告 | 減 給 | 停 職 | 免 職 | 合 計 |
|--|-----|-----|-----|-----|-----|
| 法令に違反した場合 (地方公務員法第29条第1項第1号) | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 職務上の義務に違反し、又は職務を怠った場合 (地方公務員法第29条第1項第2号) | | | | | |
| 全体の奉仕者たるにふさわしくない非行のあった場合 (地方公務員法第29条第1項第3号) | | 1 | | | 1 |
| 合 計 | | 1 | | | 1 |

教育委員会

| 処分の種類 処分事由 | 戒 告 | 減 給 | 停 職 | 免 職 | 合 計 |
|--|-----|-----|-----|-----|-----|
| 法令に違反した場合 (地方公務員法第29条第1項第1号) | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 職務上の義務に違反し、又は職務を怠った場合 (地方公務員法第29条第1項第2号) | | | | | |
| 全体の奉仕者たるにふさわしくない非行のあった場合 (地方公務員法第29条第1項第3号) | | | | | |
| 合 計 | | | | | |

3 職員のサービスの状況

(1) 職員の年次有給休暇の取得状況

| 区分 | 総付与日数 A (日) | 総取得日数 B (日) | 全対象職員数 C (人) | 平均取得日数 B/C (日) | 消化率 B/A (%) |
|-----|----------------|----------------|-----------------|-------------------|----------------|
| 雲南市 | 19,828 | 5,099 | 507 | 10.1 | 25.7 |

(注) 対象期間 暦年(平成27年1月1日から平成27年12月31日まで)

(2) 育児休業の取得状況

| 区分 | | 育児休業 取得者数 | うち両休業 取得者数 | 部分休業 取得者数 |
|-----|------|--------------|---------------|--------------|
| 雲南市 | 男性職員 | 1 | 人 | 人 |
| | | 0 | | |
| | 女性職員 | 11 | | |
| | | 11 | | |

(注) 「育児休業取得者数」、「部分休業取得者数」及び「うち両休業取得者数」の欄の上段は平成27年度に新たに育児休業(部分休業)を取得した者、下段は育児休業(部分休業)の期間が平成26年度から27年度にかけて引き続いている者の数

(3) 介護休暇の取得状況

| | | 介護休暇 取得者数 | 休暇の取得形式 | |
|-------|------|--------------|---------|-------|
| | | | 全日型中心 | 時間型中心 |
| 市長部局等 | 男性職員 | 人 | 人 | 人 |
| | 女性職員 | | | |
| 教育委員会 | 男性職員 | | | |
| | 女性職員 | | | |
| 計 | | | | |

| | | 介護休暇承認期間 | | | | |
|-------|------|----------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | | 1月以下 | 1月超え 2月以下 | 2月超え 3月以下 | 3月超え 4月以下 | 4月超え 5月以下 |
| 市長部局等 | 男性職員 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| | 女性職員 | | | | | |
| 教育委員会 | 男性職員 | | | | | |
| | 女性職員 | | | | | |
| 計 | | | | | | |

4 職員の研修及び勤務成績の評定の状況

(1) 研修の状況

| 研修名等 | 研修回数 | 研修日数 | 受講者数 | 備 考 |
|--------------------------|------|------|-----------|--|
| 新規採用職員 | 2 | 8 | 8 | 対象：27年度採用職員 ※島根県自治研修所 |
| 一般職員第Ⅰ課程 | 2 | 2 | 10 | 対象：経験年数3～4年の職員 ※島根県自治研修所 |
| 一般職員第Ⅱ課程 | 2 | 2 | 3 | 対象：経験年数7～10年の職員 ※島根県自治研修所 |
| 中堅職員 | 2 | 2 | 8 | 対象：概ね34歳の職員 ※島根県自治研修所 |
| 新任課長 | 2 | 2 | 14 | 対象：新たに課長になった職員 ※島根県自治研修所 |
| 新任課長 補佐研修 | 2 | 2 | 17 | 対象：新たに課長補佐になった職員 ※島根県自治研修所 |
| 選択研修 | 34 | 1～2 | 78 | 職員が自らの能力開発のため自主的に講座を選択して受講する ※島根県自治研修所・市町村総合事務組合等 |
| 人権・同和研修 | 9 | 1 | 424 | 市民の人権の尊重と人権問題の解決に向け市職員の共通理解を図る ※雲南市・島根県人権啓発センター |
| 男女共同参画研修 | 1 | 1 | 68 | 男女共同参画の視点に立った施策をより積極的に推進していくために職員の意識の向上を図る |
| 接遇研修 | 2 | 1 | 165 | 職員の応接態度の向上を図る ※雲南市・島根県自治研修所 |
| メンタルヘルス研修 | 1 | 1 | 98 | 職場でのこころの健康づくりを図る |
| 新規採用職員地域研修 (聞き書き文集作成) | 1 | 7ヶ月 | 8 | 職員が地域に訪問・聞き取りし、文集にまとめることにより職務に役立つ様々な能力を習得する |
| 人事評価・行政実務研修 | 9 | 1～2 | 延べ 676 | 職務上必要な行政実務を習得する |

(注) 1 研修の状況は、平成27年4月1日～平成28年3月31日の数値。

2 「島根県自治研修所」とは、県職員と市町村職員の研修をする機関。市町村が島根県へ業務を委託している。

(2) 勤務成績の評定の状況

| | |
|---------|------|
| 評定の回数 | 1回 |
| 評定の時期 | 12月 |
| 評定の対象人数 | 507人 |

(注) 勤務成績の評定の状況は、平成27年度の数値。

5 職員の福祉及び利益の保護の状況

(1) 安全衛生管理体制

| 選任状況 区分 | 総括安全衛生管理者 | | 安全管理者 | | 衛生管理者 | | | 安全衛生推進者等 | |
|------------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------|-------------------|------------------|
| | 専任すべき事業場数 (箇所) | うち専任事業場数 (箇所) | 専任すべき事業場数 (箇所) | うち専任事業場数 (箇所) | 専任すべき事業場数 (箇所) | うち専任事業場数 (箇所) | 専任者数 (人) | 専任すべき事業場数 (箇所) | うち専任事業場数 (箇所) |
| 市長部局 | | | | | 1 | 1 | 2 | 9 | 6 |
| 教育委員会 | | | | | | | | 19 | 0 |

| 選任状況 区分 | 産 業 医 | | | | 委 員 会 | | | | 左のうち、安全衛生委員会として設置している事業場数 (箇所) |
|------------|-------------------|------------------|-------------|---------------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|-----------------------------------|
| | 専任すべき事業場数 (箇所) | うち専任事業場数 (箇所) | 専任者数 (人) | 実専任者数 (箇所) | 衛生委員会 | | 安全委員会 | | |
| | | | | | 設置すべき事業場数 (箇所) | うち設置事業場数 (箇所) | 設置すべき事業場数 (箇所) | うち設置事業場数 (箇所) | |
| 市長部局 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | |
| 教育委員会 | | | | | | | | | |

(2) 職員のための福利厚生活動事業費

| 事業名 | 事業の概要・目的 | 決算額 (千円) |
|---------------|---|-------------|
| 安全衛生委員会の開催 | 職員が職場で安全で健康に働けるようにするため、安全衛生委員会を開催し職場環境・衛生管理について検討し対策を協議した。 | 732 |
| メンタルヘルス対策事業 | メンタルヘルスに関する意識向上を図るためメンタルヘルス講演会を開催した。 | 10 |
| 島根県市町村職員互助会事業 | 職員の相互救済及び福利の増進を図るため、医療費給付、育児休業助成、災害見舞金、施設利用助成等を行っている。 ※島根県市町村職員共済組合ホームページにおいて詳細を公表しています。 | 3,140 |
| 職員互助会 | 雲南市役所においては職員の福利厚生を目的とした独自の「互助会」「共済会」を設置していません。よって公費の支出実績はありません。 | 0 |
| 健康診断事業 | 職員に対して、法定健康診断及び生活習慣病対策としての各種健康診断を実施した。 | 5,941 |
| 特殊健康診断事業 | 特にVDT(ヴァジュアルディスプレイターミナル)作業の多い職員及び石綿健診を行った。 | 98 |
| 合計 | | 9,921 |

| | 対象者 | 受診者 |
|--------|-------|-------|
| 定期健康診断 | 771 人 | 700 人 |

※ 人間ドック受診者を含む

I 平成28年度職員の競争試験及び選考の状況

1 競争試験

(1) 採用試験(市役所)

| 試験区分 | 受験資格 | 試験日程 | | | | 試験内容 | | |
|--------------------|--|--|---|--|-------------|----------------------------------|--------------|-------|
| | | 受付期間 | 第1次試験 | 第2次試験 | 第3次試験 | 第1次試験 | 第2次試験 | 第3次試験 |
| 一般事務職 (大学卒業程度) | 1. 昭和62年4月2日から平成7年4月1日までに生まれた方 2. 学歴制限なし | 平成28年7月12日～8月12日 | 平成28年9月18日 | 平成28年10月30日 | 平成28年11月20日 | 教養試験 事務適性検査 職場適性検査 | 集団討論 作文試験 | 個別面接 |
| 一般事務職 (高校卒業程度) | 1. 平成3年4月2日から平成11年4月1日までに生まれた方 2. 大学卒業(見込み)者は受験できない | | | | | | | |
| 土木1 (短大・高専卒業程度) | 1. 昭和62年4月2日から平成9年4月1日までに生まれた方 2. 学歴制限なし | | | | | 教養試験 事務適性検査 専門試験 職場適性検査 | | |
| 土木2 (島根県外勤務経験者) | 1. 昭和57年4月2日から平成4年4月1日までに生まれた方 2. 平成29年3月31日現在で、島根県外での土木技術経験を5年以上有する方。(土木技術経験は民間企業、公的機関を問わない。) 3. 学歴制限なし | | | | | | | |
| 保育士・幼稚園教諭 | 1. 昭和62年4月2日以降に生まれた方 2. 保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を有する方(平成29年3月末日までに取得見込みを含む) 3. 学歴制限なし | | | | | | 集団討論 実技試験 | |
| 任期付研究員 | 1. 大学院修士課程修了以上の者、及び同等の学識を有すると認められる者 2. 子どもや中高年者に対する運動指導や健康づくり指導の経験がある者 3. 行政施策について興味関心のある者 | (第1回目) 平成28年4月25日～6月20日 (第2回目) 平成28年9月1日～10月31日 | (第1回目) 平成28年7月上旬 (第2回目) 平成28年11月下旬 | (第1回目) 平成28年8月5日 (第2回目) 平成28年12月17日 | | 書類選考 | 面接 | |

(2) 平成28年度試験実施結果

| 試験区分 | 採用予定人員 | 受験申込者数(A) | 第1次試験 | | | 第2次試験 | | 第3次試験 | | 最終合格率 (C)/(B) | 最終倍率 (B)/(C) | 採用者数 |
|-------------------|--------|-----------|--------|------------|-----|-------|-----|-------|--------|------------------|-----------------|------|
| | | | 受験者(B) | 受験率(B)/(A) | 合格者 | 受験者 | 合格者 | 受験者 | 合格者(C) | | | |
| 一般事務職 (大学卒業程度) | 若干名 | 53 | 40 | 75.5% | 9 | 8 | 3 | 3 | 3 | 7.5% | 13.3 | 3 |
| 一般事務職 (高校卒業程度) | 若干名 | 9 | 7 | 77.8% | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | — | — | 0 |
| 土木1 | 若干名 | 6 | 3 | 50.0% | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 33.3% | 3.0 | 0 |
| 保育士 幼稚園教諭 | 若干名 | 19 | 17 | 89.5% | 4 | 4 | 2 | 2 | 2 | 11.8% | 8.5 | 2 |
| 任期付研究員(第1回目) | 若干名 | 6 | 6 | 100.0% | 2 | 2 | 0 | | | — | — | 0 |
| 任期付研究員(第2回目) | 若干名 | 9 | 9 | 100.0% | 2 | 2 | 1 | | | 11.1% | 9.0 | 1 |
| 合計 | | 87 | 67 | 77.0% | 17 | 16 | 7 | 6 | 6 | 9.0% | 11.2 | 6 |

雲南市 等級及び職制上の段階ごとの職員数（平成28年4月1日現在）

行政職給料表（一）

| 等級 | 等級別基準職務表に規定する基準となる職務 | 合計 | | 内訳 | | 職制上の段階 | | |
|--------|----------------------|-----|-------|---------|-----|--------|------|--------|
| | | (人) | (%) | 職名 | (人) | (人) | (%) | 段階 |
| 1級 | 主事又は技師の職務 | 24 | 5.0 | 主事 | 13 | 24 | 5.0 | 主事級 |
| | | | | 技師 | 1 | | | |
| | | | | 保育士 | 2 | | | |
| | | | | 保育教諭 | 5 | | | |
| | | | | 保健師 | 3 | | | |
| 計 | 24 | | | | | | | |
| 2級 | 主任主事又は主任技師の職務 | 30 | 6.2 | 主任主事 | 17 | 30 | 6.2 | 主任主事級 |
| | | | | 主任技師 | 1 | | | |
| | | | | 主任保育士 | 5 | | | |
| | | | | 主任保育教諭 | 4 | | | |
| | | | | 主任保健師 | 3 | | | |
| 計 | 30 | | | | | | | |
| 3級 | 副主幹又は副主幹技師の職務 | 64 | 13.2 | 副主幹 | 45 | 64 | 13.2 | 副主幹級 |
| | | | | 副主幹技師 | 3 | | | |
| | | | | 副主幹保育士 | 6 | | | |
| | | | | 副主幹保育教諭 | 7 | | | |
| | | | | 副主幹教諭 | 2 | | | |
| 副主幹保健師 | 1 | | | | | | | |
| 計 | 64 | | | | | | | |
| 4級 | 主幹又は主幹技師の職務 | 201 | 41.4 | 主幹 | 159 | 201 | 41.4 | 主幹級 |
| | | | | 主幹技師 | 12 | | | |
| | | | | 主幹保育士 | 5 | | | |
| | | | | 主幹保育教諭 | 10 | | | |
| | | | | 主幹教諭 | 5 | | | |
| | | | | 主幹保健師 | 9 | | | |
| | | | | その他 | 1 | | | |
| 計 | 201 | | | | | | | |
| 5級 | 統括主幹又は統括技師の職務 | 59 | 12.2 | 統括主幹 | 46 | 59 | 12.2 | 統括主幹級 |
| | | | | 統括技師 | 4 | | | |
| | | | | 統括保育士 | 1 | | | |
| | | | | 統括保育教諭 | 2 | | | |
| | | | | 統括教諭 | 1 | | | |
| | | | | 統括保健師 | 2 | | | |
| | | | | その他 | 3 | | | |
| 計 | 59 | | | | | | | |
| 6級 | 次長、課長、室長又は主査の職務 | 84 | 17.3 | 次長 | 18 | 84 | 17.3 | 次長・課長級 |
| | | | | 管理監 | 4 | | | |
| | | | | 課長 | 31 | | | |
| | | | | 専門官 | 1 | | | |
| | | | | 企画官 | 12 | | | |
| | | | | 所長 | 3 | | | |
| | | | | 園長 | 5 | | | |
| | | | | 主査 | 7 | | | |
| | | | | その他 | 3 | | | |
| 計 | 84 | | | | | | | |
| 7級 | 部長又は局長の職務 | 23 | 4.7 | 部長 | 7 | 23 | 4.7 | 部長級 |
| | | | | 局長 | 1 | | | |
| | | | | センター所長 | 6 | | | |
| | | | | 会計管理者 | 1 | | | |
| | | | | 統括監 | 5 | | | |
| | | | | その他 | 3 | | | |
| 計 | 23 | | | | | | | |
| 合計 | | 485 | 100.0 | | | | | |